

二次性副甲状腺機能亢進症患者におけるシナカルセトとエテルカルセチドの消化器症状定量化比較

医療法人衆和会 長崎腎クリニック

○橋口純一郎 河津多代 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【目的】エテルカルセチドとシナカルセトの消化器症状を定量化比較する

【方法】対象はシナカルセトを服用中の二次性副甲状腺機能亢進症の外来透析患者 21 名。シナカルセトからエテルカルセチドに変更前と変更 2 か月後に、消化器症状を出雲スケールとブリストルスケールを用いて定量化を行った

【結果】シナカルセトからエテルカルセチドに変更後、胸焼けスコアが 2.04 から 0.76 ($P < 0.05$)、便秘スコアが 2.09 から 1.19 ($P < 0.05$)と有意に低下した。その他の出雲スケール評価項目やブリストルスケールでは有意差は認めなかった

【考察】Ca 受容体作動薬の消化器症状は消化管の Ca 受容体に作用して胃の排泄能低下が低下する事が疑われている。今回 2 剤の比較で消化器症状の発現頻度に差が存在したり、食物の消化管通過時間を反映するスケールに差が認められなかった事より、別の機序が存在する可能性がある

【結論】エテルカルセチドはシナカルセトより消化器症状が少ない